

## 《国内・国際》

### 1/5 人口動態 2012年推計 自然減 21万人

厚生労働省は、2012年の人口動態統計の年間推計を発表した。1年間に生まれた赤ちゃんは103万3千人、死亡数から出生数を引いた「自然減」は21万2千人で、減少幅は過去最大になると見込んでいる。日本の人口が自然増から自然減に転じたのは2005年。2006年は自然増となったが2007年以降は毎年、死亡数が出生数を上回っている。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、2060年には人口が8674万人になるとしている。

### 1/5 子どものスリム化 進む

文部科学省が発表した2012年度学校保健調査速報によると、肥満傾向の子どもの割合は、幼稚園から高校の全学年(4月1日時点5～17歳)で全国平均が1割以下となった。現行の調査法式となった2006年度以降初めてで、スリム化が進んでいる。文科省によると平均身長は約10年間横ばいだが平均体重は2003年度以降、おおむね減少が続いている。文科省は「学校での啓発などで、肥満が将来の生活習慣病につながるという意識が浸透してきた」とみている。

### 1/11 入院日数の地域差 なお2倍

平均入院日数が神奈川県は25.5日なのに、高知県は54.7日。厚生労働省が発表した「2011年患者調査」で、都道府県によって入院日数に、なお2倍以上の差があることがわかった。調査は3年に1回。無作為に抽出した全国の6428病院で2011年9月の1ヵ月間に退院した約101万人の患者の入院日数を調べた上で、全体を推計した。入院日数は全国平均で34.3日。ちなみに山口県は52日と入院が長い県の上から3番目だった。

### 1/15 災害ボランティア 震災被災地の支援で 3倍に

2010年10月からの1年間で災害ボランティア活動に参加した人は、2006年の前回調査の3倍を超す431万7千人に上ったことが14日、総務省の推計で分かった。岩手、宮城両県など東日本大震災の被災地を中心に活動した人の割合が高くなっており、震災ボランティアにより全体の数が増加したとみられる。阪神大震災にちなんだ1月17日の「防災とボランティアの日」を前に、総務省が2011年の社会生活基本調査の結果をあらためて分析した。

### 1/29 2012年 人口移動報告

総務省は28日、2012年の人口移動報告を公表した。東日本大震災の被災地は、宮城県が復興需要による企業進出や福島県からの避難者受け入れで、13年ぶりに転入者が転出者を上回る転入超過となった。福島県は全国最多の1万3843人の転出超過で、2011年の3万1381人から半分以下に減ったものの、人口流出が続いている。全国的には、転出超過が前年と同数の36道府県。市町村も74.7%で転出が上回り、大都市に人口が集まる傾向が続いている。ちなみに山口県は3635人の転出超過だった。

### 1/30 事業所 6.4% 減

総務省・経済産業省が29日発表した2012年の「経済センサスー活動調査」によると、全国の実業所数は580万4223事業所で2009年の前回調査と比べて6.4%減となった。従業者数は3.6%減の5632万4082人だった。事業所数と従業者数は、17の産業のうち医療・福祉を除く16の産業で減少した。中でも経営基盤の弱い小規模事業所の減少が目立った。今回の調査は企業活動の国勢調査と位置づける新しい統計で、2012年2月1日を調査日として全国の企業活動を調査した。

## 《県内》

### 1/6 県内 成人式 対象 1万3927人

県教育委員会は今年の県内の成人式の参加対象者と日程をまとめた。対象の新成人数は昨年12月5日現在で前年より285人少ない1万3927人。男性は前年より313人減の7060人。女性は同28人増の6867人。成人式を14日の成人の日、当日に開く市町はゼロ。12市町が13日に開く。萩市、長門市、田布施町、周防大島町は2～4日に済ませており、柳井市は6日に開く。上関町は8月15日に予定しており、阿武町は年齢調整(数え年から満年齢に変更)のため、今回は実施しない。